

柏崎・刈羽地域 稲作だより

平場版No.5

継続!! 1等級比率 95% 穂肥～水管理編

H27.6.19

◎北陸地方の1ヶ月予報(6/13~7/12) 北陸地方気象台6月11日現在

- ・平年に比べ曇や雨の日が少ない見込みです。
- ・このため降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多い見込みです。

1 現在の生育状況

◎田植え日・ほ場条件によって差はありますが、全体的に茎数が多くなっています。

【こしいぶき】(6月10日現在、数値の()は指標値との比較)

調査地点(田植日)	本年平均値	上田尻(5/10)	茨目(5/3)
草丈(cm)	56	56	55
茎数(本/m ²)	570	616	524
茎数(本/株)	26.9 (70株計算)	29.0 (70株セット)	34.6 (50株セット)
葉齢	9.8	9.7	9.9
葉色(SPAD)	41.7	43.7	39.7
葉色(カラースケール)	5.5	5.7	5.2

好天が続いています。稲の生育の進み具合に注意しましょう!



【コシヒカリ】(6月10日現在、数値の()は指標値との比較)

調査地点(田植日)	本年平均値	上田尻(5/14)	大津(5/12)	上高町(5/6)
草丈(cm)	57	60	56	55
茎数(本/m ²)	526	556	455	568
茎数(本/株)	34.7 (50株計算)	30.6 (60株セット)	30.0 (50株セット)	31.2 (60株セット)
葉齢	9.9	9.8	10.0	9.9
葉色(SPAD)	37.6	33.2	40.0	39.7
葉色(カラースケール)	4.8	4.1	5.2	5.2

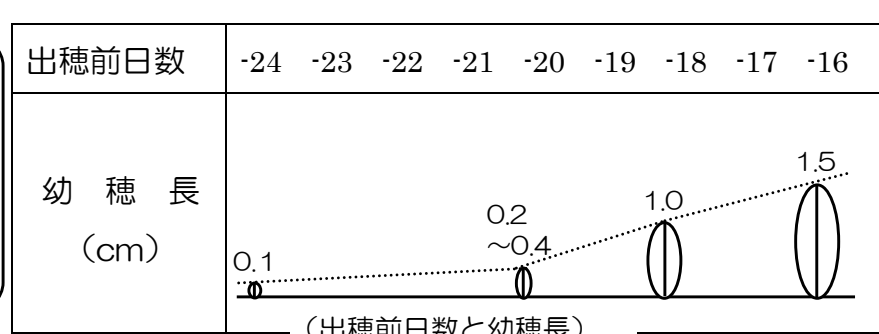
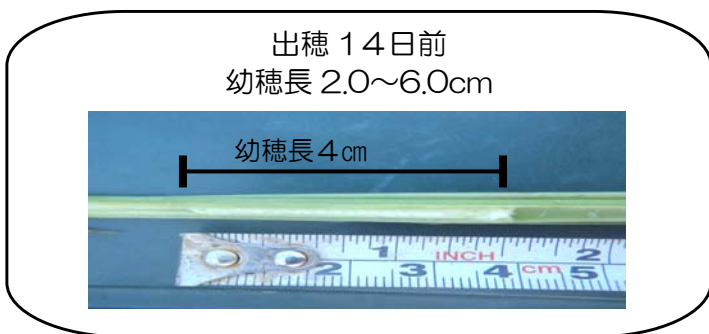
2 適切な穂肥の実施 ~穂肥時期と量の目安~

品 種	田植基準日	出穂期平年値	1回目穂肥 (出穂前日数)	2回目穂肥 (出穂前日数)	使用肥料(例)	肥料ごとの10a当たり穂肥施肥量
越路早生	4月25日	7月20日	7月2日 (18日前)	7月10日 (10日前)	穂肥520号	1回目: 7kg、2回目 7~9kg
			6月29日 (21日前)	7月7日 (13日前)	たんぼのみり	1回目: 8kg、2回目: 8~12kg
新潟次郎	5月3日	7月18日	6月23日 (25日前)	7月4日 (14日前)	硫安	1回目: 14kg、2回目 14kg
こしいぶき	5月7日	7月28日	7月3日 (23日前)	7月12日 (14日前)	穂肥520号	1回目: 10kg、2回目: 10kg
			6月30日 (26日前)	7月9日 (17日前)	たんぼのみり	1回目: 12kg、2回目: 13kg ※2回合計で窒素成分量 3kg とする。

- ・「たんぼのみり」など有機質を含む肥料は効果発現に時間がかかりますので「穂肥520号」より3日程度早く施用してください。
- ・「たんぼのみり」は約8kg、「穂肥520号」は約7kgの施用で、窒素成分1kg相当の施用となります。

※今後の天候により、出穂期予測等に変更が出る可能性がありますコシヒカリについては、「稲作だより緊急穂肥情報」(7月10日発行予定)をご覧ください。

(1) 穂肥時期の目安 → 幼穂を確認して確かめましょう。平均的な生育の株を選び、ほ場ごとに確認をしましょう。



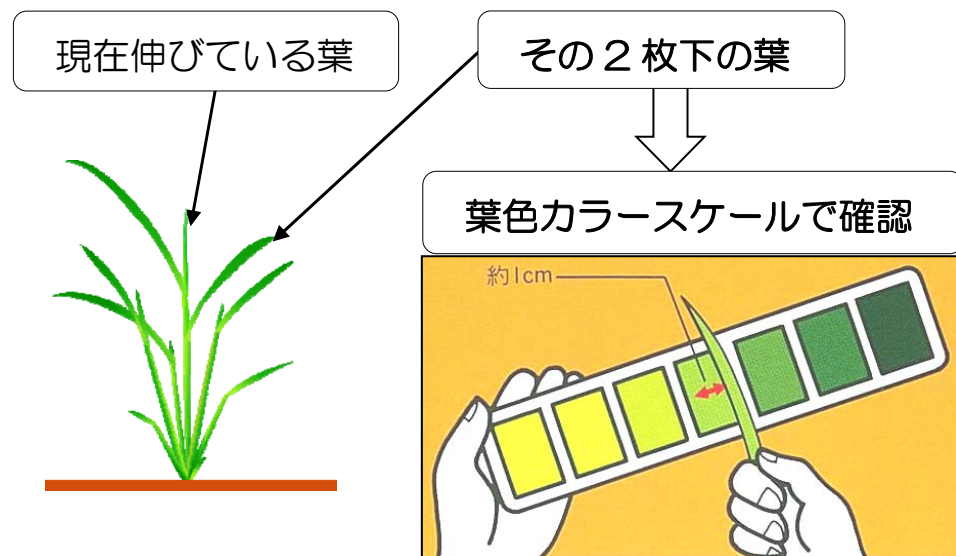
(2) 施肥量の判断 (葉色の確認)

◎測定方法

- ほ場内の生育の中庸な場所を選び、太陽を背にして、右図を参考に葉色カースケールで測定しましょう。(風の無い曇天が測定しやすい)

◎1回目の穂肥の稲姿の目安

品種	草丈 (cm)	葉色 (カースケール)	葉色 (SPAD)
こしいぶき	58	5	35
コシヒカリ	77	4.5	32



(注1) 草丈、葉色が上表より大きい場合は、1回目の穂肥量を控えめにしましょう。

(注2) 1回目の穂肥の前に葉色が葉色カースケールで4以下に低下した場合は、穂肥施用の時期を早めましょう。

【基肥一発肥料の場合】

- 必ず1回目穂肥時期に稲姿を確認し、目安以下に葉色がさめた場合は、2回目の穂肥時期に施用してください。

【県認証特別栽培農産物 (5割減減栽培) の場合】

- 化学窒素量の上限はこしいぶき：3.5kg、コシヒカリ：3kgです。上限を超えないよう、化学窒素入り穂肥の施用量に注意しましょう。穂肥量が足りない場合は、葉色が落ちる前に有機100%肥料(味好2号等)を追加してください。

3 今後の水管理

☆梅雨明けが遅れる可能性があります。地耐力を下げないように気をつけましょう。

- 出穂1か月前までに中干しを終了し、地耐力を維持しながら飽水管理を行いましょう。

状態：田面の足跡や溝に水が溜まっている状態を保つ水管理のこと。(土を乾かさない)

やり方：田面の高い部分に水が被る位に水を入れ、自然に減水したら表面が乾かないうちに再び入水

- フェーン現象のように気温が急激に上昇する場合には、一時的に湛水し、急激な乾燥による障害を防ぎましょう。



(飽水管理のイメージ)

4 病虫害対策

カメムシ対策のポイント

- カメムシは雑草の種子を好むため雑草が結実しない間隔で畔の草刈りをし、水稻出穂後も継続して草刈りをしましょう。
- 薬剤防除の効果が上がるように、防除時には雑草が短い状態にしましょう。



(いもち病の病斑)

- 雑草の種子が河川に流入し広がる恐れがあるため、河川付近に雑草を放置せずに処分しましょう。
- 昨年いもち病が出た地域・ほ場は特に注意し、発病が確認されたら速やかに防除しましょう。

◎薬剤使用例 (H27.6.10現在登録情報)

対象病虫害	薬剤名	成分数	使用量(10a)	散布時の水位	散布適期	使用時期	使用回数
いもち病 紋枯病	イモチエース粒剤	1	3kg	3~5cm	出穂20~10日前	収穫35日前まで	1回
いもち病	ブラシン粉剤DL	2	3~4kg	-	出穂期	収穫7日前まで	2回以内
紋枯病	リンバー粒剤	1	3~4kg	3~5cm	出穂30~10日前	収穫30日前まで	2回以内
稲こうじ病	撒粉ボルドー粉剤DL※注	0	3~4kg	-	出穂20~10日前	出穂10日前まで	-
カメムシ類	スタークル粒剤	1	3kg	3~5cm	出穂~穂揃い期	収穫7日前まで	3回以内

※注 使用時期は「出穂10日前まで」です。生育が早まることがあるので、散布適期の範囲内で早めに散布してください。

- 粒剤の散布にあたっては湛水状態で均一に散布し、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。

~農薬の安全使用を徹底しましょう~

1. 農薬を使用するときは、農薬使用基準に基づき、使用者の責任において使用する。
2. 防除前に、器具の洗浄、清掃が十分であるか確認してから使用する。
3. 農薬の散布に当たっては、飛散しないように風向きなどに細心の注意を払う。
4. 農薬の調整時や散布時には、手袋やマスク、長袖などを着用し、薬剤が直接触れないようにする。

【お問い合わせ先】

- JA 柏崎営農指導課 21-2095
- JA 中央柏崎支店 23-3411
- JA 南部高田支店 22-5165
- JA 東部田尻支店 22-5264
- JA 北部西中通支店 23-2357
- JA 高柳支店 41-2244
- JA 刈羽支店 45-2255
- JA 西山支店 47-2001
- 柏崎農業普及指導センター 21-6263

平場版 No.5

次回発行日：7月10日頃
緊急版コシヒカリ穂肥対策

柏崎地域農業振興協議会

柏崎市、刈羽村、中越農業共済組合、柏崎農業協同組合、柏崎土地改良区
柏崎農業普及指導センター (柏崎地域振興局農業振興部)